

第147期のご報告

2013年4月1日～2014年3月31日

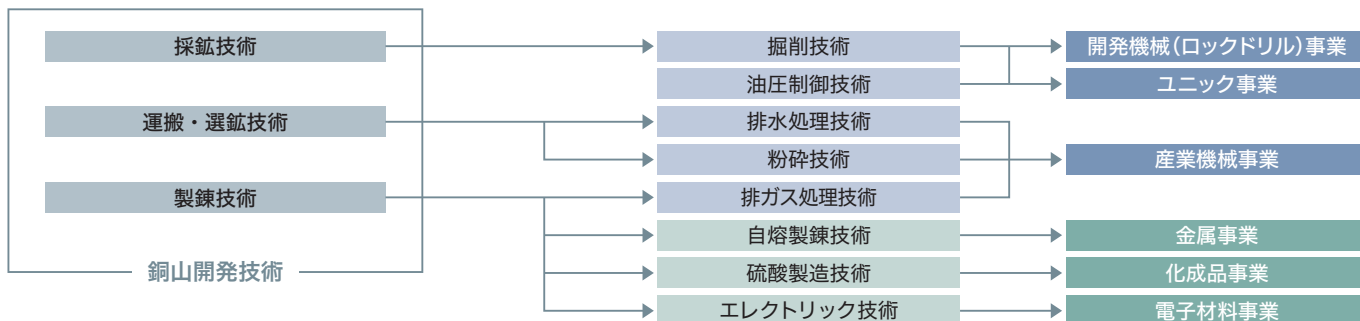
古河機械金属グループの事業領域	1
株主の皆様へ	2
特集	3
インフラを支える古河機械金属	
事業部門別の概況	7
財務データ	9
会社概要及び株式の状況	10



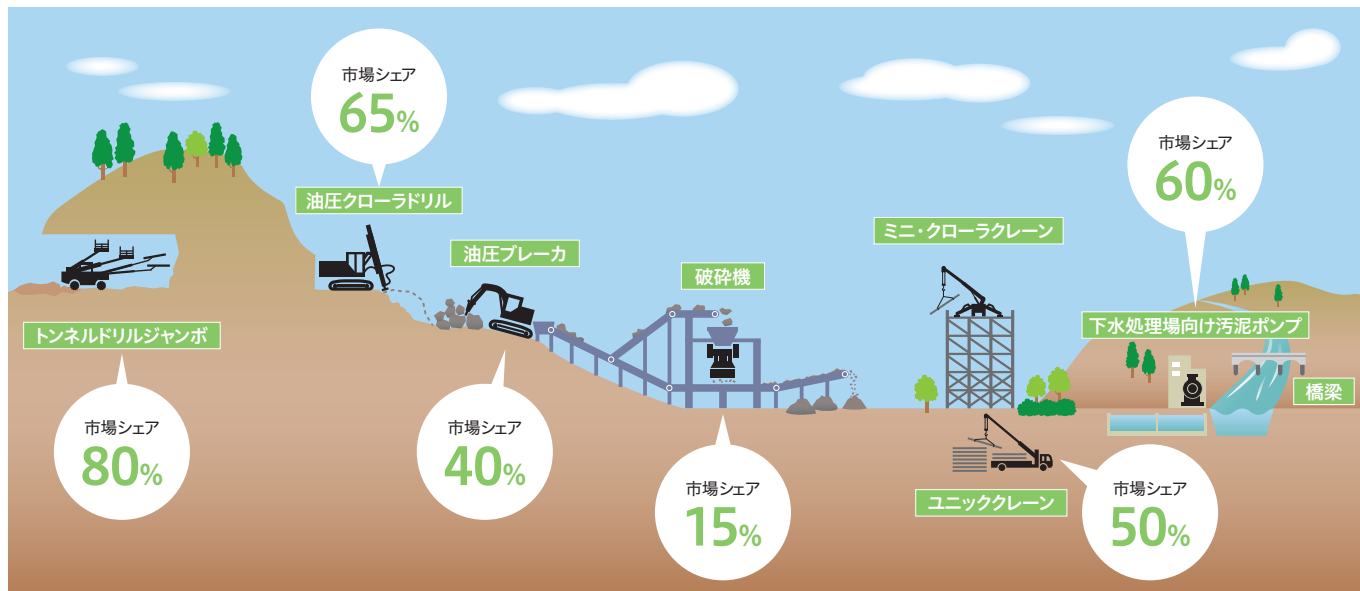
古河機械金属グループの事業領域

1875(明治8)年創業以来、当社は銅山事業を出発点に、常に時代の要請に応えるべく様々な事業を展開してきました。銅山開発で培われた当社のコア技術は長い歳月とともに進化発展し、現在の当社グループの事業領域の礎となっています。事業領域は大きく「機械」と「素材」に分かれ、あらゆる市場に製品を提供しています。

古河機械金属技術の系譜



インフラ整備にかかる当社製品群と国内シェア



株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。ここに第147期（2013年4月1日から2014年3月31日まで）の決算の概要をご報告申し上げます。

当期の経営環境と業績について

日本経済は、政府・日銀の財政・金融政策等によりデフレから脱しつつあり、景気は緩やかに回復に向かいましたが、海外景気の下ぶれが景気を下押しするリスクとなっております。

このような経済状況のもと、当社グループの売上高は1,630億26百万円（対前期比25億13百万円減）、営業利益は68億86百万円（対前期比35億23百万円増）となりました。売上高については、主として産業機械事業、開発機械事業及びユニック事業が対前期比増収となりましたが、2012年10月に燃料事業から、2013年3月に塗料事業から撤退したことを主因と

して減収となりました。なお、両事業の前期の売上高は、燃料事業が37億70百万円、塗料事業が150億78百万円、計188億49百万円でありました。経常利益は61億50百万円（対前期比33億86百万円増）となりました。特別利益には、受取補償金10億94百万円ほか、特別損失には固定資産除売却損1億1百万円、減損損失1億86百万円ほかを計上した結果、当期純利益は39億76百万円（対前期比10億円増）となりました。

また、配当につきましては、前期より1円増配し、1株当たり3円とさせていただきます。

中長期的な戦略について

当社グループは、引き続き収益体質強化の仕組みづくりに取り組み、企業価値の増大を図ってまいります。機械事業においては、底堅く推移する復興需要をはじめ、整備新幹線やリニア中央新幹線、国土強靱化計画、更には東京オリンピックと続く国内需要の取り込みに注力する一方、海外を中心に資源開発、インフラ整備などの市場におけるシェア拡大を重要な戦略と位置付け、将来への基盤を築いていきます。素材事業においては、研究開発への取り組み方を見直し、新製品の早期事業化を図ってまいります。

2015年3月期の連結業績につきましては、売上高1,635億円、営業利益80億円、経常利益67億円、当期純利益42億円を予想しております。

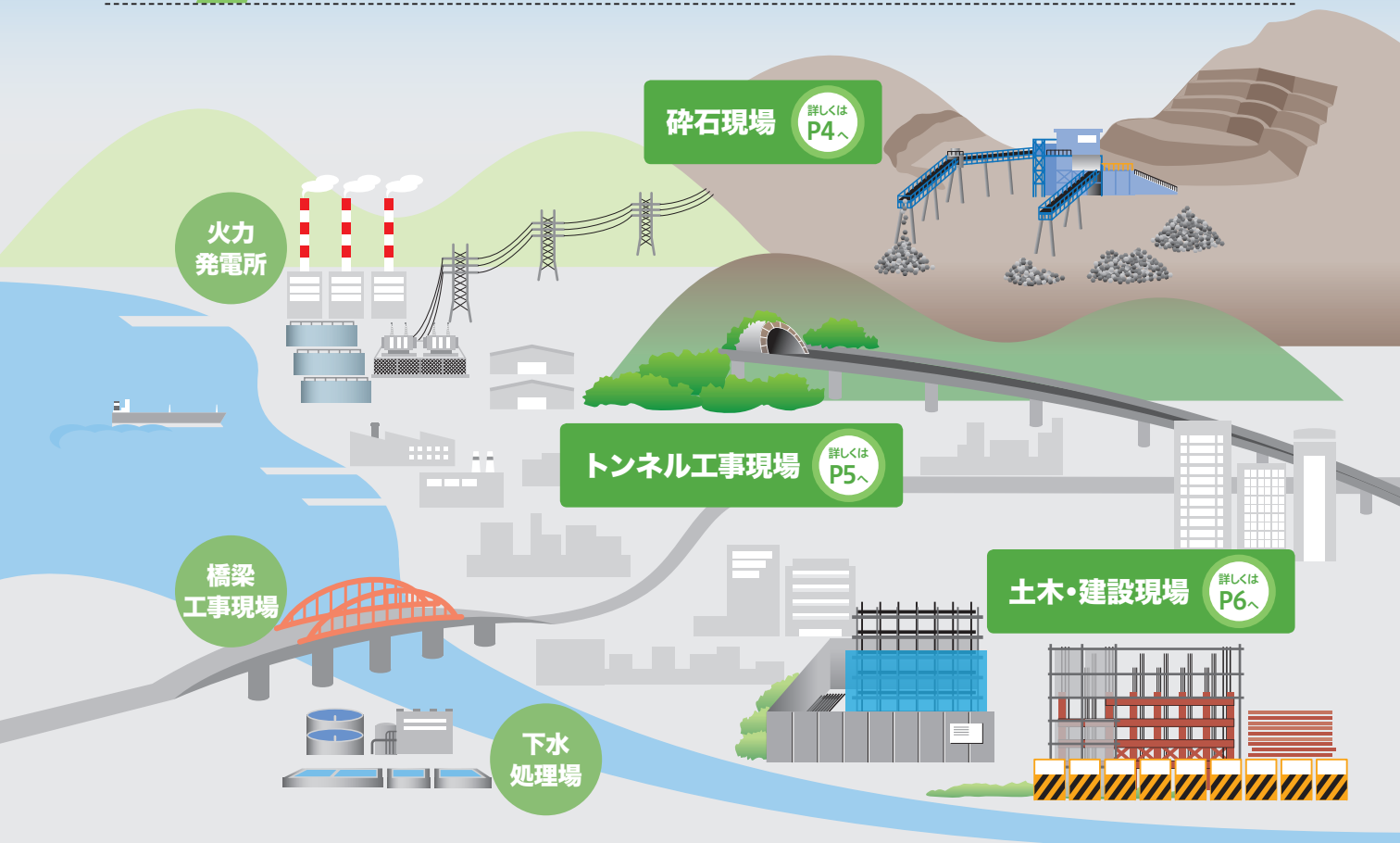
株主の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2014年6月

代表取締役社長

宮川尚久

インフラを支える古河機械金属



火力
発電所

砕石現場

詳しくは
P4へ

トンネル工事現場

詳しくは
P5へ

橋梁
工事現場

土木・建設現場

詳しくは
P6へ

下水
処理場

銅山開発で培った様々な技術や製品は、日本の経済発展とともに進められたインフラ整備に多く使用され、活躍の場を広げてきました。今では古河機械金属の機械事業の主力製品として事業の発展に貢献しています。そして現在、震災復興、東京オリンピック特需、国土強靱化計画など、国内のインフラ整備の重要度は更に増えています。そのキーワードとなる「コンクリート」「トンネル工事」「土木・建設現場」において、当社製品がどのように関わっているかをご紹介します。



シネマPV「社会基盤を支える古河機械金属 インフラ編」

インフラ整備と当社製品の関わりをわかりやすく紹介したビデオです。現場で活躍する各種製品をぜひご覧ください。
http://www.youtube.com/watch?v=gTszdxNNG_w

キーワード

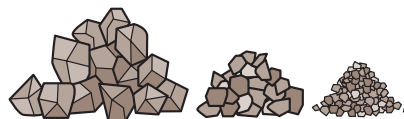
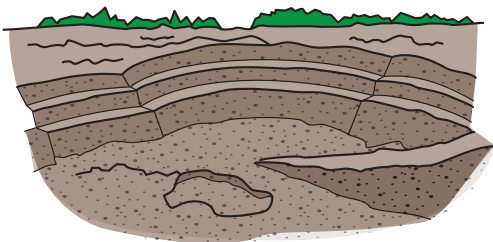


1 **コンクリート**

原料となる砕石・石灰石を採掘し砕く

建物や道路などあらゆる構造物に使用されるコンクリート。それは、砕石やセメントなどを混ぜ合わせて造られます。主原料となる砕石・石灰石の採掘現場では、山を崩すための油圧クローラドリルや油圧ブレーカが活躍。更に岩石を破碎するプラントでは、破碎機やスクリーンが使用されます。

■ 砕石現場



岩盤を発破して崩す

大きな岩石を小さく割る

更に岩石を細かくする

① 岩盤に穴をあける



油圧クローラドリル

岩盤に発破用火薬を装填する穴を掘る機械で、正確かつスピーディな掘削技術が評価されています。国内では砕石、石灰石鉱山で使用されますが、海外では各種鉱山、インフラ整備でも使用されます。

② 大きな岩石を割る



油圧ブレーカ

油圧ショベルに取り付けて、岩盤の掘削、岩石の小割、コンクリートの破碎などに使用されます。小型ブレーカから岩盤掘削用の超大型ブレーカまで取り揃え、様々なニーズに対応しています。

③ 段階に分けて破碎



破碎設備

岩石を破碎するプラントでは、破碎機のほか、大きさごとにふるい分けるスクリーンなどが使用されます。

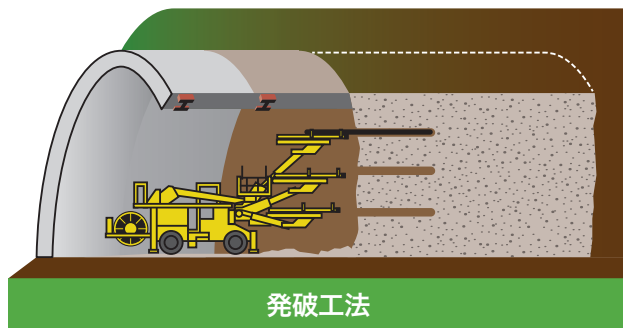


キーワード **2** **トンネル工事**

道路や鉄道の トンネルを掘る

道路や鉄道を通すために掘られるトンネル。岩盤が硬い山岳トンネル工事では発破工法が用いられ、その最先端でトンネルドリルジャンボが活躍します。また、地下や海底のトンネル工事ではシールド工法が用いられ、泥水の排水にシールドポンプが使用されます。

■ 山岳トンネル工事現場



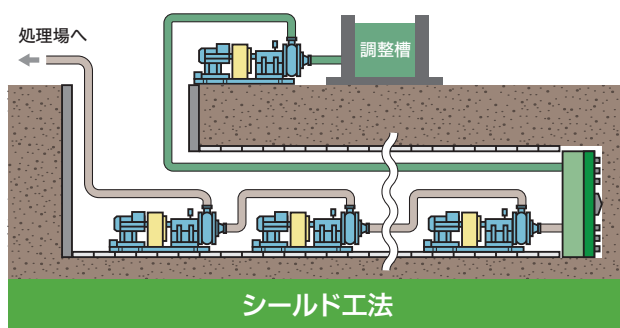
岩盤に穴をあける



トンネルドリルジャンボ

岩盤に発破用火薬を装填する穴を掘るための機械です。これまで青函トンネルや八甲田トンネル、関越トンネルなど、数多くの現場において使用された実績があります。現在では、復興道路や復興支援道路などに使用されており、今後は整備新幹線やリニア中央新幹線でも活躍が期待されます。

■ 地下トンネル工事現場



泥水を運び出す



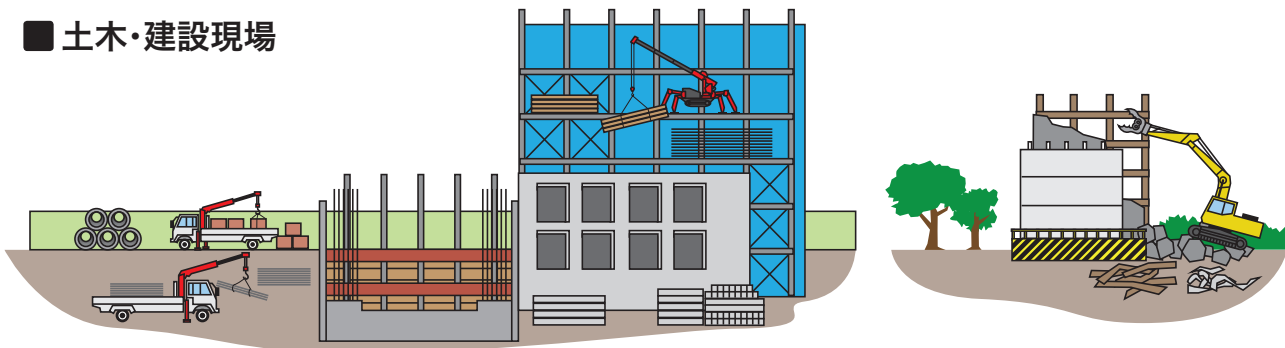
シールドポンプ

シールド工法によって掘り出された石や泥などを、水と一緒に排出するポンプです。東京湾アクアラインやトルコ・ボスポラス海峡など国内外で実績があります。

吊る・積む・運ぶ・解体する

土木・建設現場では様々な重機が使用されます。ビルの建設現場では、資材の運搬、積み降ろしを行うユニッククレーンや、屋内など狭い場所で威力を発揮するミニ・クローラクレーンが活躍。また解体現場では、コンクリートの破碎などに油圧圧砕機が活躍します。

■ 土木・建設現場



運搬

基礎・構造体組立

外装・内装工事

解体工事

吊る・積む・運ぶ



ユニッククレーン

建築資材などの運搬と、積み降ろし作業を1台で効率良く行えるトラック搭載型クレーンで、土木・建設現場では今や欠かせません。

狭い場所で作業する



ミニ・クローラクレーン

コンパクトなボディでクローラ走行可能なことから、トラックが入り込めない建設現場や不整地、屋内作業現場で威力を発揮。欧米を中心に活躍の場を広げています。

構造物を解体する

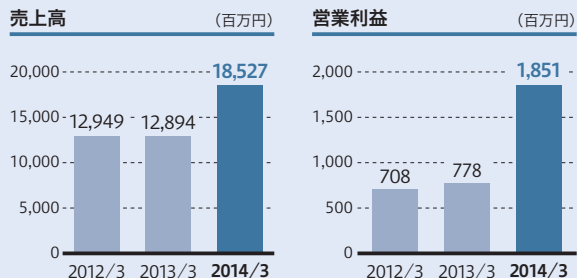


油圧圧砕機

コンクリート構造物・鉄骨構造物の解体に使用する油圧ショベルのアタッチメント製品です。騒音・振動の発生を最小限に抑え、環境に配慮した作業を可能にします。

Machinery

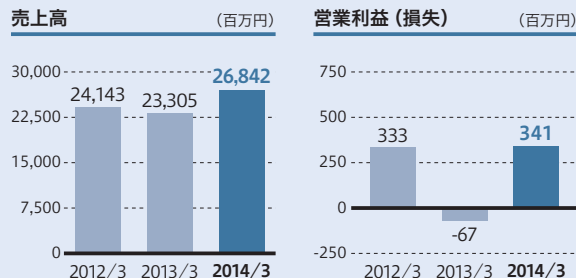
産業機械事業



前期に受注した震災被災地における高台移転工事関連の大型破碎設備や長距離ベルトコンベアについては、出来高に対応する売上を計上しました。また、粉碎機等の一般産業機械も好調で出荷を伸ばすことができました。

開発機械事業

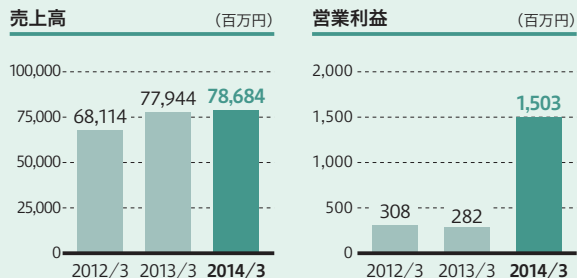
(ロックドリル)



国内は、建設需要や砕石・石灰石需要の増加により、油圧ブレーカを中心に出荷が増え、トンネルドリルジャンボの売上も伸びました。海外は、円安効果を主因に欧州、米国向けで増収となりましたが、世界的な資源市場の低迷で厳しい状況が続いています。

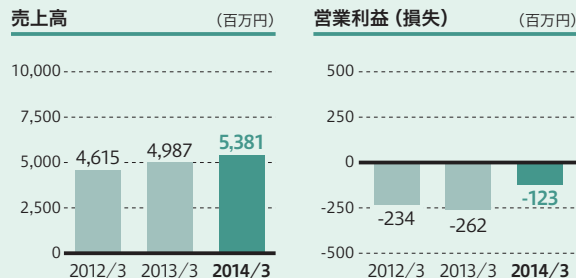
Material

金属事業



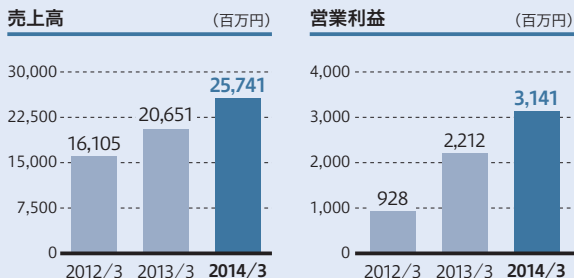
電気銅の販売量は94,966トン(対前期比1,823トン減)となりました。金属事業の売上高は円安の進行を主因として増収となりました。

電子材料事業



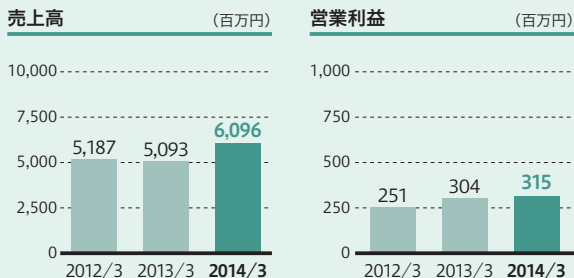
原発事故の風評被害により主力の高純度金属ヒ素は国内外の価格・量で苦戦が続いていますが、コイル、窒化アルミ及び光学部品は堅調に推移しました。

ユニック事業



国内普通トラックの登録台数やクレーン架装率は高い水準を維持し、ユニッククレーンは大きく増収となりました。また、ユニックキャリアの出荷も順調に伸びました。海外は、ミニ・クローラクレーンの出荷増と円安により増収となりました。

化成品事業

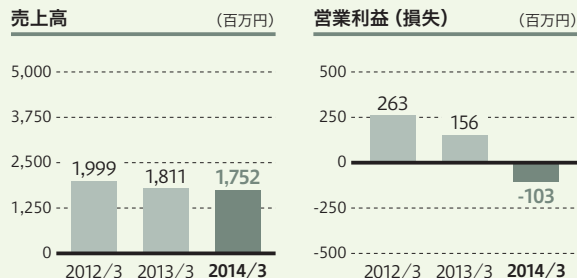


亜酸化銅の売上は銅価格上昇と需要増加により増収となり、酸化チタンも売上を伸ばすことができました。

Others



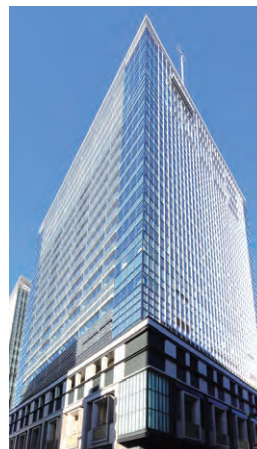
不動産・その他



不動産事業は、大阪地区の賃貸ビルの空室率が改善せず売上は低迷しました。東京での日本橋室町東地区再開発プロジェクトについては、予定通り室町古河三井ビルディングが竣工し、開業に伴う一時費用の負担等により営業損失の計上となりました。

日本橋室町に新ビルが誕生

新ビル『室町古河三井ビルディング (COREDO室町2)』が2014年2月に竣工し、商業施設も3月にオープンしました。地上22階、



地下4階建てのビルは、商業施設(地下1階～6階)、オフィス(7～17階)、賃貸住宅(18～21階)の三層構成で、オフィスはLED照明をはじめとする環境に配慮した設備や、BCP対策をバックアップする機能を備えています。当社の創業者古河市兵衛が明治10年(1877年)に本店事務所を開設した、いわば発祥の地である日本橋室町に建った新ビルは、今後、不動産事業の新たな柱として当社収益基盤の強化に寄与するものと考えています。

売上高 (連結)

(億円)

1,630億円

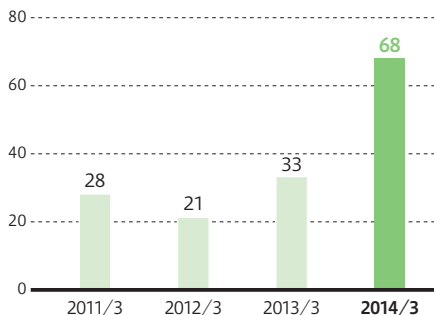


主として機械3事業が増収となりましたが、前期に燃料及び塗料事業から撤退したことにより、売上高は1,630億26百万円(対前期比25億13百万円減)となりました。

営業利益 (連結)

(億円)

68億円

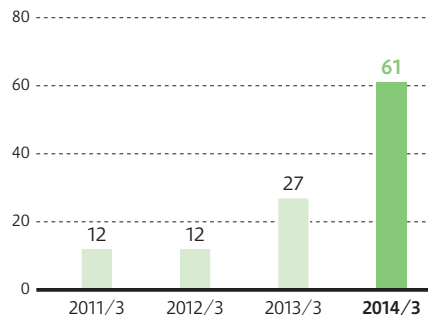


主として機械3事業及び金属事業が増益となり、営業利益は68億86百万円(対前期比35億23百万円増)となりました。

経常利益 (連結)

(億円)

61億円

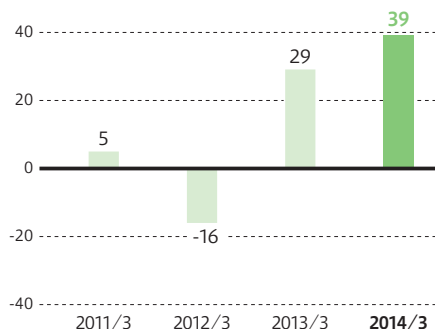


経常利益は61億50百万円(対前期比33億86百万円増)となりました。

純利益 (連結)

(億円)

39億円

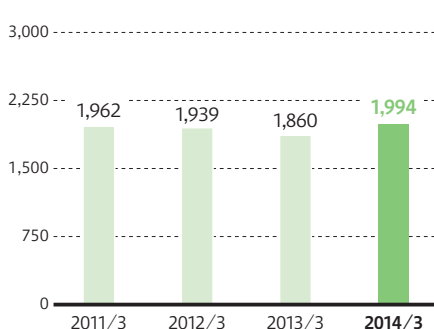


特別利益に受取補償金10億94百万円ほか、特別損失に固定資産除売却損1億1百万円、減損損失1億86百万円ほかを計上した結果、当期純利益は39億76百万円(対前期比10億円増)となりました。

総資産 (連結)

(億円)

1,994億円

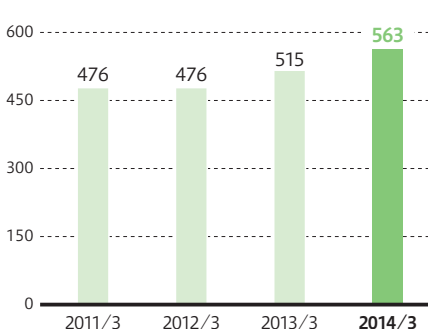


室町古河三井ビルディングの完成による有形固定資産の増加と上場株式の株価上昇による投資有価証券の増加を主因として、総資産は1,994億8百万円(対前期末比133億31百万円増)となりました。

純資産 (連結)

(億円)

563億円



利益剰余金の増加等により、純資産は563億13百万円(対前期末比48億6百万円増)となりました。自己資本比率は27.4%(対前期末比0.5ポイント上昇)となりました。

会社概要

古河機械金属株式会社 FURUKAWA CO.,LTD.

創 業 1875(明治8)年8月
 設 立 1918(大正7)年4月
 資 本 金 282億818万円
 従業員数 2,413人(連結)
 本 社 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)
 電話(03)3212-6570

取締役及び監査役

(2014年6月27日現在)

代表取締役会長 相馬 信義
 代表取締役社長 宮川 尚久
 取締役副社長 座間 学
 常務取締役 中村 晋
 常務取締役 松本 敏雄
 社外取締役 吉田 政雄
 取締役 大田 彰則
 取締役 岩田 穂
 常勤監査役 江本 善仁
 常勤監査役 幸崎 雅弥
 社外監査役 石原 民樹
 社外監査役 友常 信之
 社外監査役 初瀬 良治

執行役員

(2014年6月27日現在)

副社長執行役員 座間 学
 常務執行役員 中村 晋
 常務執行役員 松本 敏雄
 上級執行役員 大田 彰則
 上級執行役員 岩田 穂
 上級執行役員 渡邊 修
 上級執行役員 渡邊 泰史
 上級執行役員 松戸 茂夫
 上級執行役員 三村 清仁
 執行役員 加藤 直樹
 執行役員 池部 清彦
 執行役員 久野 佳成
 執行役員 井上 一夫

古河機械金属グループ

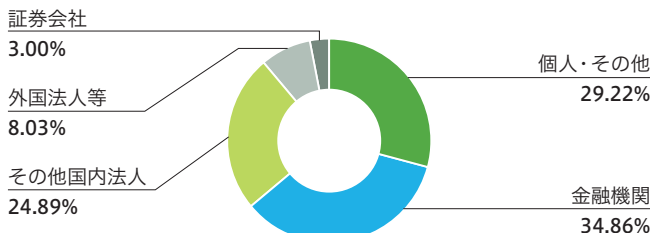
機械事業	産業機械事業	古河産機システムズ(株)
	開発機械事業	古河ロックドリル(株)
	ユニック事業	古河ユニック(株)
素材事業	金属事業	古河メタルリソース(株)
	電子材料事業	古河電子(株)
	化成品事業	古河ケミカルズ(株)
その他事業	不動産事業・その他	古河機械金属(株)

株式の状況

株式

発行可能株式総数	800,000,000 株
発行済株式の総数	404,455,680 株
株主総数	28,071 名

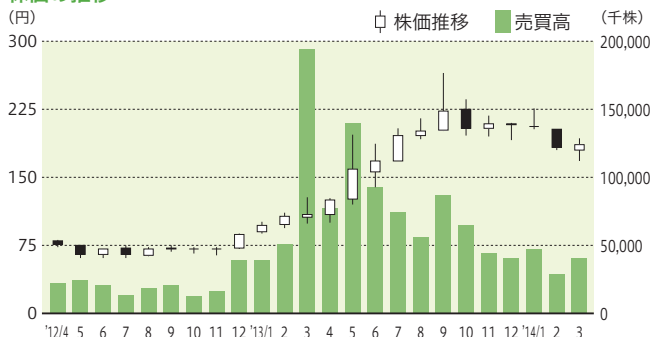
株式所有者別分布の状況



大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	32,417	8.01
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	27,072	6.69
朝日生命保険相互会社	23,734	5.86
清和総合建物株式会社	15,034	3.71
横浜ゴム株式会社	13,411	3.31
株式会社損害保険ジャパン	10,756	2.65
富士通株式会社	9,617	2.37
古河電気工業株式会社	8,777	2.17
富士電機株式会社	8,620	2.13
中央不動産株式会社	6,877	1.70

株価の推移



株 主 メ モ

- **本社**
〒100-8370 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
電話 (03)3212-6561 (法務部)
- **事業年度の末日** 3月31日
- **定時株主総会** 6月
- **定時株主総会の基準日** 3月31日
- **期末配当の基準日** 3月31日
中間配当を実施するときの基準日は9月30日
- **公告掲載のホームページ** <http://www.furukawakk.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)
- **単元株式数** 1,000 株
- **株主名簿管理人**
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- **特別口座の口座管理機関**
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- **郵便物送付先及び各種お問合せ先**
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 (0120)782-031 (フリーダイヤル)

お知らせ

- **住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について**
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座のない株主様につきましては、当社が特別口座を開設し管理していますので、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- **未払配当金の支払いについて**
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

表紙の写真 「長距離ベルトコンベア」

陸前高田市の震災復興整備事業に 貢献しています！



岩手県陸前高田市で行われている震災復興整備事業において、古河産機システムズの製品が採用され、復興の一翼を担っています。

震災復興整備事業では、山を削って造った高台に住宅を、掘削した土砂や碎石で整地したかさ上げ地に商業施設や公園を、それぞれ整備する計画となっています。

同社はこの事業において、破碎能力8,000t/hの大規模な破碎設備、破碎した土砂・碎石をかさ上げ地に搬送する長距離ベルトコンベア(幅1.8m、長さ合計約3km)、河川対岸へベルトコンベアをわたす吊り橋を担当。吊り橋は奇跡の一本松のすぐそばに架けられ、陸前高田市内の小学校児童への公募により「希望のかけ橋」と命名されました。

同事業に関わる土砂の搬送は、約1年かけて行う予定になっています。

WebサイトでもIR情報をご覧ください！

株主・投資家情報ページ

<http://www.furukawakk.co.jp/ir/>



FURUKAWA CO.,LTD.

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)

電話 (03)3212-6570

<http://www.furukawakk.co.jp>

